

B I R HONGKONG 2017 が開幕 Non-FerrousMetal Division

2017.05.22 19:28

世界 63 か国から 900 名の参加者を数える BIR (Bureau of international recycling) の香港大会が 5 月 22 日に香港 コンベンション & エキシビジョンセンターで開催された。22 日は非鉄金属関係の Non-FerrousMetalDivision で日本の大紀アルミ、Minmetals、ステンレススクラップ市場については SMR 社の MakusA.Moli 氏などが講演を行った。

BIR 最初のプレゼンターとなった大紀アルミの門谷氏は大紀アルミの東南アジア地域での生産、投資の推移などについて語り、会場からは

「新たな投資先はどこですか？」との質問には

「まだ検討段階」としながら「インドには興味をもっている」と門谷氏、BIR のボードメンバーである大紀アルミの林取締役も質問に答えた。

BIR REPORT 詳細は後日に掲載します。



(IRUNIVERSE Y.Tanamachi)

2018 年 3 月 18 日をグローバルリサイクリング DAY に BIR

2017.05.23 18:26

BIR は 2018 年 3 月 18 日を世界初のグローバルリサイクリング DAY とすることを発表した。この日は BIR の設立から 70 周年を迎える日でもある。BIR 会長であるランジット・バシ氏が発表した。会長は 3 月 18 日をリサイクルを促進する日としたいと力強く言った。

バシ会長は

「我々のメンバーは一流のリサイクル企業で構成されています。強力なイニシアティブに積極的に取り組んでいきたい」。

続けて

「我々は世界初のリサイクル業界の国際組織です。来年の 3 月 18 日は BIR の 70 周年を記念し、重要なイベントとする日にしたい。

世界 70 億人の 10%の人々がグローバルリサイクリング DAY で前向きな活動を行ったら、世界に対して非常に大きな影響を与えることができます」。



7 番目の資源物はリサイクル原料

「地球には 6 つの資源物がある。鉱物、水、空気、石炭、石油、天然ガス。7 番目の資源がリサイクル可能なものだ。世界の人々にこの 7 番目の資源について気付いてもらいたい。存在感を高めていきたい。世界中の方々に関心をもっていただきたい。

リサイクルというのはクリーンかつ持続可能な環境を作っていくことである。同時に、リサイクル業界の技術、専門性なしには7番目の資源を手にすることはできなかったことを改めて認識しなければなりません。

2018年にグローバルリサイクリングDAYを迎えるために、数々のキャンペーンを打ち出していき、連携を広げていきたい。

2018年3月18日は特別な日になります。これは毎年繰り返されるたびに存在感を増していくことがなると確信しています」とバシ会長が熱く語ると、会場からは積極的にグローバルリサイクリングDAYに参加する意思を見せる発言が相次いだ。

(IRUNIVERSE Sasaki&Tanamachi)

中国の銅スクラップ市場について MINMETALS の HongYang 氏語る BIR 香港

2017.05.24 08:19

BIR 香港にて MINMETALS ドイツの Hongyang 氏（Deputy General Manager）が中国の銅スクラップ市場についてプレゼンテーションを行った。Hongyang 氏は中国に入ってくる銅スクラップの動きについて説明。輸入国と発生国の特徴についてデータを用いながら説明した。



中国の銅スクラップ輸入量は確かに若干減ってはいるけれどまだ多い。中国が購入している TOP10 の輸入先は全体の 75%～80% を占めており、2014 年以降、この TOP10 の比率は増えているという。大口の輸入先は変わらず、米国、西欧州、そして香港だという。

中国の揚げ地では浙江省など南部での輸入が多いが減少傾向にあるという。

現在、中国国内の銅スクラップの回収率が上がってきており、中国の銅加工メーカーが使用するスクラップも国内 60%、輸入 40% と国内発生スクラップの利用率が上昇しているという。

また、中国国内のスクラップ回収量が増えると中国国内の銅製品の生産量が増える傾向があるとも述べた。

銅製品の輸入量は中国の環境政策に影響されるとのこと。

かなり長い間、中国は世界最大の銅市場であり続けているが、スクラップの調達国とは Winwin の関係を築いていきたいと述べられた。

会場からの質問で、中国はいつか銅スクラップの輸出国になるのではないか、との問いに Hongyang 氏は「私自身は、中国は銅が不足しているので、輸出国になるのは相当先のことになるのではないかとみております」と答えた。

MINMETALS は中国最大の金属資源企業であり、この 10 年間、フォーチュン 500 のトップ企業リストにランクインしている。

(IRUNIVERSE Y.Tanamachi)

中国の輸入スクラップ規制強化と環境監査について BIR MA HONGCHANG 氏

2017.05.23 08:42

香港で開催されている BIR 2017 HONGKONG にて BIR の中国コンサルタントの MA HONGCHANG 氏が中国のスクラップ輸入政策の転換について語った。



MA 氏は「スケジュールははっきり決まっていない」としながらも、中国の海外スクラップに対する規制は強化されることはあれ、緩むこと、後退することはない、と明言。

輸入スクラップの新しい条件、政府による規制は 4 月 18 日に発表された。それは主に海外からのスマリング（密輸）に対する取り締まりであり、脱税の摘発（例えば、安価なスクラップに高価なものを混ぜて安い税金で仕入れようとする場合）である。

これらはすでに中国が発表している National Sword2017 の規制に則っており、税関での規制、中国環境保護局の政策ともすべて合致している。

中国の税関による検査（National Sword2017）キャンペーンは今年の 2 月 7 日より始まっており、海外からの密輸、脱税を取り締まっている。イリーガルな動きを徹底的に監視しており、今は工業系、家電系スクラップ プラスチックスクラップの監視を強めているが、こうした監視対象は今後も増えていく方向にあるという。中国税関は業界団体と連携を強めて規制を強化していくだろう、と MA 氏。

今年の 2 月 24 日、3 月 17 日に中国政府当局と税関のタッグによって脱税行為、汚染物の輸入を行った 114 名の容疑者を逮捕した。

中国全土に及ぶ環境監査は昨年 2016 年 1 月に河北省を皮切りに始まった。同年 7 月には 8 の都市で監査。11 月には追加で 8 の都市を監査し、昨年は合計 16 都市を監査した。これらは製紙、印刷業、染め物、セメント、鋳業製錬系、化学薬品系など深刻とされた汚染企業を立ち入り監査した。これによって企業が生産を止めたり、工場を閉鎖したりしている。監査のための対策は非常に大きな動きとなって広がっている。

今年 2017 年現在では 15 の都市で環境監査を行っている途中。

MA 氏は規制対象とする輸入カテゴリーと量の段階的な調整について、
行政的なツールを包括的に利用してサーキュラーエコノミーを促進する目的のもとに行われるが、スクラップ輸入規制の明確なスケジュールは発表されていないとのこと。



「今後はワイヤー&ケーブル、ミックスメタルスクラップ、モーターについて 2018 年末以降にはほぼ完全に輸入禁止になるというのが自分の知る限りの情報だ」と MA 氏は言う。

銅とアルミスクラップについては 2020 年までは輸入は許可されるが、2020 年以降も輸入を継続するかどうかはわからない、とのこと。アルミについてはシュレッダースクラップ（Zorba）への規制強化が求められている。

MA 氏は最後に

「中国国内および輸入スクラップについては中国の政策に注意を払っていく必要があります。中国に輸入されるスクラップは中国の環境保護政策を熟知し、ルールを順守すべきです。輸入スクラップは引き続き規制強化されていく」と述べられた。

(IRUNIVERSE Y.Tanamachi)

ASEAN と中国のアルミ再生塊市場について 大紀アルミ inBIR 香港

2017.05.23 17:54

来年、創立 70 周年を迎える日本の最大手アルミ合金メーカーの大紀アルミ（DAIKI ALUMINUM）が BIR HONGKONG 2017 の NonFerrousMetalDivision のトップバッターで登場。ちなみに大紀アルミは BIR のプラチナムスポンサーでもある。同社のインドネシア支店（ダイキアルミ インドネシア）の門谷正雄取締役が「ASEAN と中国の再生アルミ市場について」プレゼンテーションを行った。



プレゼンテーションの要旨は

ASEAN で自動車市場は成長している。モーターバイクも順調に成長している。こういった市場環境のなかでアルミ二次合金の需要も伸びており、大紀アルミの二次合金市場のシェアも伸びていることを披露。

タイのアルミ二次合金市場における大紀アルミのシェアは 42.5%、フィリピンは 39.9%で急速に伸びている。インドネシア 15.4%、ベトナム 11.4%、マレーシアが 23.9%という状況。

ダイキアルミインドネシアは今後、アルミ二次合金の生産キャパシティを 3 倍に拡大する予定で、1 月あたり 1 万 5000 トンの生産量とする計画がある。原料は欧州米国から輸入した Zorba を使用。インドネシアで生産したアルミ合金を FTA を利用してアジア諸国に販売するプロジェクトである。

ちなみにインドネシアでは Zorba を輸入する際にもアルミ合金を輸出する際にもライセンスが必要。しかし関税はない。

一方、タイでは大紀アルミにとって 3 か所目となる新工場を立ち上げる予定。

大紀アルミは ASEAN での市場シェアを 2016 年の 26%から 2020 年は 35%まであげていきたい、としている。

そのひとつの手立てとして現地で LCS（LowCostSmelter）を活用していく方針を述べられた。

世界最大のアルミ二次合金市場である中国の状況については

「中国のアルミ二次合金業界は今、春秋時代から戦国時代へ入っている」とのこと。

他の競合他社との差別化をはかるために以下の3点を挙げている。

国内需要の拡大にいかに対応できるか？

加工貿易が廃止されるリスクに対応できるか？

環境規則の引き締めに対応できるか？

大紀アルミの強みについては

ブランド力、品質、包括的なテクニカルサポート、販売力 中国の二次合金メーカーであるデルタ（大正アルミ）とJVを組んでおり、中国市場でも強みを出して存在感を出していきたい。



会場からの質問では

「大紀アルミがタイ以外で投資する先は考えているのか？」との質問に対して

「インド市場に注目しています。検討中です」との回答を示した。

また、電気自動車の市場が広がることでアルミ合金市場への影響はありますか？との問いに

「そういった影響が出るまでには相当時間がかかると思う」と大紀アルミの林取締役が答えた。

(IRUNIVERSE Y.Tanamachi)

日本にはリサイクルの中心的な役割を期待 BIR 会長ランジット・バシ氏

2017.05.23 18:07

BIR 香港大会を取材中の IRUNIVERSE 取材チームは大会 2 日目となる 23 日、ランジット・バシ会長へのインタビューを行った。



BIR は 1948 年に設立され、来年 70 周年を迎える。設立の目的は世界中のリサイクル企業がリサイクルの促進を連携して進め、リサイクル可能なものについてはフリーかつフェアな取引をすることである。

品質の高い原料スクラップの輸出や取引を行われなければならないと考えている。

日本から今回の会議への参加者は少ないが、日本は世界のリサイクル市場で非常に重要なプレーヤーだと認識している。

日本がリサイクルを行う際に発生しうる環境問題をどのように取り扱っているのか、日本のリサイクル業界の方々とぜひ情報交換をしたいと考えている。

日本は政府もリサイクルに積極的で学ぶべきところが多い。

「リサイクルというのは原材料、資源を作ることである」。

今後、世界中で人口が減っていくなかで、リサイクルした材料をより使うべき。

このような会議で日本のみなさんに中心的な役割を担ってほしい。次回、インドのデリー大会（2017 年 10 月）では日本の方々にもっと参加していただき、日本のベストプラクティスをシェアしてほしい。

余談ながら、日本の参加者が増えれば、日本語の同時通訳も入れることをバシ会長は我々に約束してくれた。

(IRUNIVERSE Sasaki&Tanamachi)

BIR E-Scrap Committee 香港での E-Scrap リサイクルの将来について

2017.05.24 14:36

BIR 香港大会最終日の 24 日、9 時から E-Scrap コミッションが Thomas Papageorgiou 議長（Ansnet SA ギリシャ）の挨拶を皮切りに開催された。



2016 年 10 月 24 日にアムステルダムで開催された役員会の議事録承認後、議長より、BIR によるスクラップのフローに関するメタ・スタディ・プロジェクトの概要が発表された。

続いて、ゲストスピーカーによる講演が始まった。

最初に講演を行ったのは香港再生資源総商会の Shirley Kwok 名誉顧問。同商会は 2015 年に設立された団体で、加盟企業は現在 400 社を超え、香港に止まらず本土からの会員も受け入れ、リサイクル協会の持続可能な発展を積極的に促進することに、業界、地域社会への貢献を目指している。

メンバーを対象とした定期的な会合や他団体とセミナーを開催し、香港のリサイクリング業界に対する社会的認識を高めるための様々な活動を推進するとともに、政府との連携を深めるための活動も行なっているとのことだ。



続いて、齊合天地集団（CHIHO TIANDE）の Goh Kian Guan 氏が「香

港の e-waste リサイクルの持続可能な将来」について講演を行った。

元エンジニアの同氏は、中国政府や他国政府と比べ香港政府のリサイクル推進には遅れが見られると指摘した。

香港で e-waste リサイクルを行なうことは環境面でも経済面でも強みやメリットがあり、e-waste を dirty business ではなく、clean business 、一つの産業として成立させるべきであるとの見方を示した。

業界から政府に対し、リサイクル推進を働きかける必要があり、連携して best practices の導入を進めるべきだとして、講演を締めくくった。

その後、会場から

「香港政府は大きな海外企業へは補助金を多く出しているが、香港で長年手作業でやっている業者に対してはサポートはないのか？」といった質問も出た。

(IRUNIVERSE tanamachi)

BIR Ferrous Division 中国の鉄スクラップについての質疑飛び交う

2017.05.24 17:43

Sims Group Global Trade Corporation の William Schmiedel 氏をトップとする Ferrous Division の会合が 23 日、BIR 香港大会で開催された。



同氏は、今年の鉄スクラップ業界について、概ねポジティブに推移するとの見方を示した。

この Division meeting では 2 名のゲストスピーカーによる講演が行われた。



一人目は上海先物取引所（SHFE）コモディティ部門の Dr. Chen Ye。同氏は中国では鉄鋼メーカーの製造プロセスの移行により今後、長期的には中国国内でスクラップの消費が増加するとの見方を示した。

二人目は米国 Idoru Trading Corporation の創業者 Nathan Fruchter 氏で、業界は時代とともに変化しつつある経済、政策の変更に対応する必要があるとして、現在、ブラジル、ペルー、チリなどの南米、ナイジェリア、アンゴラなど中央アフリカ、さらにはモザンビーク、南アなどの東アフリカ地域からのスクラップ輸出が増えていることに注目しているとの見解を示した。



同氏はこうした地域からのスクラップ輸出の今後の推移、展開について、BIR に追跡調査の依頼をしていることから、今後 BIR を通じ情報がもたらされる可能性がある。

(IRUNIVERSE Sasaki&Tanamachi)

経済もリサイクルも米とメキシコは相互依存の関係 メキシコ Glorem の Alejandro 氏

2017.05.25 16:37

米とメキシコは経済的にもリサイクル的にも一体化し、相互依存の関係が続いている。人間でいうならば右腕と左腕の関係なのだ、と喩えてくれたのはメキシコでアルミスクラップ、真鍮スクラップなどを扱う GLOREM 社の Alejandro 氏だ。BIR 香港大会期間中に話を聞いた。



米トランプ政権になって、メキシコのリサイクル業界になにか影響はあったのか、変化はあったのか、という問いに対して彼は前述のように表現した。日本語でいうならばお互い持ちつ、持たれつであるため、そう簡単に関係は切れない、ということになる。

米で発生したスクラップをメキシコで処理して再生原料、あるいは製品として再び米国に輸出するという輸出入関係は長らく続いている。例えば鉛でいえば、米で排出されたバッテリースクラップはメキシコの再生鉛メーカーでリサイクル処理され、米の電池メーカーなどに販売されている。メキシコは米のリサイクル委託先のような位置づけでもある。

彼自身はコンサルタントを主業としているが、親会社（父の会社）はスクラップのプロセッサーである。メキシコで稼働している製造業のスクラップ処理についてのコンサルタントを行っている。

アルミスクラップや真鍮系スクラップを日本はじめ中国、韓国にも販売しており、日本の商社とは付き合いが長いのだという。

Alejandro 氏は中国のスクラップ輸入規制が強まることを気にしており「（中国は）次は Zorba などシュレッターミックススクラップの輸入規制を行う可能性が高い」という。理由としてはシュレッターミックスメタルスクラップは様々なメタルスクラップが混入しているため一定の分析評価が難しいためだというのが彼の認識だった。



(IRUNIVERSE Sasaki&Tanamachi)

台湾の大手ステンレススクラップディーラー HSKUstainless の楊 CEO に聞く

2017.05.25 15:55

台湾の最大手ステンレススクラップディーラー、HSKU stainless (興国) の若き代表、楊氏 (= Vegas Yang = 37 歳) と BIR 香港大会期間中にインタビューを行った。楊氏と HSKUstainless は今回、BIR の StainlessComittee の新しいボードメンバーとなっている。その理由について「ただ単に台湾のステンレススクラップディーラーでは少ない、英語が話せる経営者だからでしょう」と笑いながら答えた。



楊氏は 2 代目 (2nd Generation) で HSKU 社を切り盛りしている。同社は月間 1 万トンのステンレススクラップを扱っている (輸入含む)。集荷ソースとしては 6 割が国内、4 割が輸入という比率。このなかで日本からの輸入もあり、輸入量のうち 30% が日本からだという (Ni 系、Cr 系ともに)。また日本への輸出もあるのだという。

楊氏は足元低迷している Ni 系、Cr 系スクラップの見通しについて

「Ni 系、Cr 系ともに来月 (6 月) はもっと下がるだろう」と予想している。日本市場も 6 月はずっと下がる、と彼は読んでいる。仕入れ時では安くなればいいが、今のニッケル相場低迷フェロクロム価格の続落は、彼が台湾のステンレスメーカーに販売する場合にも圧迫要因となるため「今のマーケットは Difficult だ」と話していた。

特に高炭素フェロクロム市況はすでに中国でポンド 90 セント割れの安値も出ており、伴ってクロム系スクラップの相場も下落。HSKU 社の買値も足元でトン 450 ドル/CIFtaiwan 前後だというが 6 月はまだ一段下落の可能性あり。

台湾国内のステンレスメーカー、YUSCO や Walshin、唐榮鉄工は 5 月がメンテナンスで減産しており、スクラップ需要もふるわなかったが、6 月からは通常生産に戻ってくるのでスクラップの需要増に期待しているとのこと。

200 系ステンレススクラップの混入について聞いたが

「弊社 (HSKU) に入ってくるステンレススクラップは選別されたものが入ってくるため特段問題はない」という。

(IRUNIVERSE Sasaki & Tanamachi)

SUS スクラップの処理選別技術力が強み OryxStainless の Joost 氏に聞く

2017.05.25 17:45

オランダを本拠地とする大手ステンレススクラッププロセッサー（ブレンダー）である OryxStainless 社のコマーシャルディレクターであり、BIR のステンレスコミッティーの議長役でもある業界の貴公子、Joost Van Kleef 氏に BIR 香港大会期間中にインタビューを行った。



OryxStainless 社はグローバルベースで月間 45,000 トンのステンレススクラップを扱い、ブレンドスクラップの処理を行っている。本拠地のオランダでは月間 2 万トン処理しており、欧州のステンレスメーカーへはすべて直納でブレンドスクラップを供給しているとのこと。オランダ以外ではドイツ、タイでもプロセッシングを行っている。また中国では今のところヤード展開は行っていないが市場調査中とのこと。

Oryx 社は例えば ELG などと比べると会社、処理量の規模は小さいが、

「我々は選別や処理技術に強みがある。こうしたプロセッシングでは専門の技術ノウハウがあり、プロフェッショナルを育てるために人件費もかかるものだが、我々としてはクオリティの高い原料供給を続けることで存在価値を高めていきたい。我々のポリシーは小さくとも持続的に効率的な経営を続けていくことだ」と力強く語られた。

現在のステンレススクラップマーケットについて聞くと

「ステンレススクラップの発生はタイトではあるが、ニッケル、フェロクロム相場の下落でステンレススクラップマーケットは採算的に厳しい状況である。これは欧州も日本も同じことだとは思う。我々も今期は減産すること（ブレンドスクラップ供給を落とす）を検討している」とのことだった。

(IRUNIVERSE Sasaki&Tanamachi)